

《Lesson 3》主格の関係代名詞： who / which / that

主格の関係代名詞は、「先行詞」が「関係詞節」の中で主格の働きをする時に使われます。

先行詞	主格の関係代名詞
人	who
人以外（動物・物・場所など）	which
人・人以外（すべて）	that

【主格の関係代名詞が入るフレーズ：作り方】

<例1> 「5か国語話せる男の子」というフレーズを作る場合

<例2> 「サッカー場が4面ある（その）公園」というフレーズを作る場合

ステップ①：それぞれのフレーズを、「先行詞」と「関係詞節に入る文」に分ける。

	先行詞	関係詞節に入る文
<例1>	a boy <男の子>	<u>He</u> can speak five languages. <彼は、5か国語話せる>
<例2>	the park <（その）公園>	<u>It</u> has four soccer fields. <そこには、サッカー場が4面ある>

ステップ②：「先行詞」と「関係詞節に入る文」の間に「関係代名詞」を置く。

<例1> 使われる関係代名詞 = **who / that**

[先行詞 (a boy) = 人 関係詞節の中の先行詞を表す代名詞 (He) = 主格]

<例2> 使われる関係代名詞 = **which / that**

[先行詞 (a park) = 人以外 関係詞節の中の先行詞を表す代名詞 (It) = 主格]

	先行詞	関係代名詞	関係詞節に入る文
<例1>	a boy <男の子>	who / that	He can speak five languages. <彼は、5か国語話せる>
<例2>	the park <（その）公園>	which / that	It has four soccer fields. <そこには、サッカー場が4面ある>

ステップ③：「関係詞節に入る文」の代名詞を取る。

who / which / that は「関係詞節」で代名詞の役割を果たすため（だから関係代名詞）「関係詞節に入る文」で使われていた代名詞（He / It）を取る。

	先行詞	関係詞節（関係代名詞＋文）
<例1>	a boy 男の子	who / that can speak five languages. 5か国語話せる
<例2>	the park （その）公園	which / that has four soccer fields. サッカー場が4面ある

これらのフレーズを文の中で使うと、例えば以下ようになります。

<例1> I have met a boy who (that) can speak five languages .
(5か国語話することができる男の子に会ったことがあります)

<例2> The park which (that) has four soccer fields is on that road.
(サッカー場が4面ある（その）公園はあの道にあります)

ポイント！ that よりも who / which の方が無難

that は、先行詞が「人・人以外」の両方で使えるため便利ではあるのですが、フォーマルな場では、先行詞が「人」なら who、「人以外」なら which の方が好まれるという考えもあるため、迷った場合は、who / which を使うのが無難でしょう。

<例> 私は、5か国語話することができる男の子に会ったことがあります。

I have met a boy who can speak five languages. = ◎

I have met a boy that can speak five languages. = ○

ポイント！ 受動態の形でよく使われる which

先行詞が「人以外」の際の主格の関係代名詞である which は、よく受動態の形で登場しますので覚えておきましょう。

<例> This is a book which was written by a famous writer.
(これは有名な作家によって書かれた本です)